



平成23年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年2月4日

上場取引所 東 大

上場会社名 株式会社 栗本鐵工所

コード番号 5602 URL <http://www.kurimoto.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 福井 秀明

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 総合企画室長 (氏名) 小島 真也

TEL 06-6538-7724

四半期報告書提出予定日 平成23年2月10日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年3月期第3四半期の連結業績(平成22年4月1日～平成22年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期第3四半期	68,904	△25.8	2,514	△58.4	1,720	△66.4	1,537	—
22年3月期第3四半期	92,918	△14.9	6,051	543.0	5,121	—	△2,634	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年3月期第3四半期	11.63	—
22年3月期第3四半期	△19.92	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年3月期第3四半期	130,003	40,608	31.0	305.07
22年3月期	134,204	39,713	29.4	298.24

(参考) 自己資本 23年3月期第3四半期 40,334百万円 22年3月期 39,433百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
23年3月期	—	0.00	—		
23年3月期(予想)				0.00	0.00

(注)当四半期における配当予想の修正有無 無

3. 平成23年3月期の連結業績予想(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	100,000	△16.0	3,000	△55.6	2,000	△65.0	1,500	—	11.35

(注)当四半期における業績予想の修正有無 無

4. その他（詳細は、【添付資料】P.3「その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 無

(注) 当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 有

(注) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

(注) 「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 23年3月期3Q 133,984,908株 22年3月期 133,984,908株

② 期末自己株式数 23年3月期3Q 1,770,014株 22年3月期 1,766,512株

③ 期中平均株式数(四半期累計) 23年3月期3Q 132,216,269株 22年3月期3Q 132,222,071株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続きは終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、四半期決算短信(添付資料)P. 2「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	2
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	2
2. その他の情報	3
(1) 重要な子会社の異動の概要	3
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	3
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書	6
(第3四半期連結累計期間)	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 継続企業の前提に関する注記	9
(5) セグメント情報	9
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新興国の成長による景気牽引や国内消費の下支え、また、企業の設備投資意欲の持ち直し傾向などから、緩やかな回復傾向にあるものの、長引く円高、欧州における金融不安の再燃など、依然として不透明な状況が続いております。

このような状況における当第3四半期連結累計期間の当社グループの売上高は前年同四半期連結累計期間比24,013百万円減少の68,904百万円となりました。

売上高減少の要因は、鉄管部門における需要の減少、機械部門における契約納期に起因する一時的な売上高の減少ほかとして12,641百万円、これに加えて、昨年度に実施いたしました事業再編による影響額として11,372百万円となります。

利益面につきましては、鉄管部門における需要の減少、ならびに厳しい価格競争に加えて原材料価格の上昇などの要因と機械部門における減収などにより、営業利益は2,514百万円(前年同期6,051百万円)、経常利益は1,720百万円(前年同期5,121百万円)となりました。また、四半期純利益は1,537百万円(前年同期2,634百万円の純損失)と利益改善となりました。

セグメント別の売上高の概要は以下の通りであります。なお、第1四半期連結会計期間から企業会計基準変更の適用ならびに事業再編の結果により、セグメントの構成を事業ドメインに則した単位に置換しているため、各セグメントの対前年同四半期との比較数値は記載しておりません。

パイプシステム事業は公共投資縮減が継続するなか、鉄管部門において下水道、農業用水市場の需要が低調に推移したこと、また、バルブ部門におきましても上・下水道ともに厳しい需要環境下で推移したことにより、売上高は41,333百万円となりました。

機械システム事業は、設備投資抑制の影響を受け、産業機械部門において鍛圧機関連ならびに粉体関連の海外向け大型案件の売上高計上該当物件が少なかったことなどにより、売上高が減少となりました。また、橋梁・水門ならびにこれらの付帯事業について、昨年度に事業再編を行った結果、これによる減収影響額が6,777百万円となり、売上高は14,573百万円となりました。

産業建設資材事業は、厳しさが続く建設業界の影響により建材部門が低調に推移したこと、化成品部門においても、農地整備予算の大幅削減による農水需要の落ち込みにより減収となりました。また、建設・ヒューム管部門の事業再編の影響による減少額が4,594百万円となり売上高は12,997百万円となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期末の連結総資産は、仕掛品などが増加した反面、受取手形及び売掛金、有形固定資産、投資有価証券などの減少により、前連結会計年度末比4,200百万円減少の130,003百万円となりました。

一方、負債におきましては、長期借入金から1年内返済予定の長期借入金への振替、支払手形及び買掛金の増加などがありましたが、返済による短期借入金の減少などにより、前連結会計年度末比5,095百万円減少の89,394百万円となりました。

純資産におきましては、利益剰余金の増加、その他有価証券評価差額金などの減少により、前連結会計年度末比895百万円増加の40,608百万円となりました。

《キャッシュ・フローの状況》

当第3四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は、前連結会計年度末より304百万円減少の15,264百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結累計期間における営業活動による資金の増加は4,075百万円となりました。これは仕入債務の増加で資金が増加し、売上債権の減少で資金が増加したことなどによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結累計期間における投資活動による資金の増加は12百万円となりました。これは主に有形及び無形固定資産の売却による収入、有形及び無形固定資産の取得による支出によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結累計期間における財務活動による資金の減少は3,555百万円となりました。これは主に短期借入金、長期借入金の返済によるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

通期業績予想につきましては平成22年11月8日にて公表いたしました業績予想の数値から変更はありません。

2. その他の情報

(1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

①一般債権の貸倒見積高の算定方法

貸倒実績率等が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められる場合に、前連結会計年度末において算定した貸倒実績率等の合理的な基準を使用して一般債権の貸倒見積高を算定しています。

②たな卸資産の評価方法

当第3四半期連結会計期間末の棚卸高の算出に関しては、実地棚卸を省略し、第2四半期連結会計期間末(一部の連結子会社では、前連結会計年度末)の実地棚卸高を基礎として合理的な方法により算定する方法によっています。

③法人税等並びに繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法

法人税等の納付税額の算定に関しては、加味する加減算項目や税額控除項目を重要なものに限定する方法によっています。

繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度末に使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっています。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

①会計処理基準に関する事項の変更

資産除去債務に関する会計基準の適用

第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年 3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年 3月31日)を適用しています。

これにより営業利益、経常利益はそれぞれ1百万円減少し、税金等調整前四半期純利益は、102百万円減少しています。また、当会計基準等の適用開始による資産除去債務の変動額は103百万円であります。

②表示方法の変更

「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成20年12月26日)に基づく財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令(平成21年 3月24日 内閣府令第5号)の適用により、当第3四半期連結累計期間では、「少数株主損益調整前四半期純利益」の科目で表示しています。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	15,291	14,918
受取手形及び売掛金	39,694	40,577
商品及び製品	8,359	8,780
仕掛品	6,946	5,882
原材料及び貯蔵品	2,085	2,209
その他	1,298	2,776
貸倒引当金	△369	△418
流動資産合計	73,306	74,727
固定資産		
有形固定資産		
土地	24,484	25,201
その他(純額)	17,377	18,114
有形固定資産合計	41,862	43,315
無形固定資産		
その他	414	526
無形固定資産合計	414	526
投資その他の資産		
投資有価証券	10,834	12,046
その他	4,623	4,497
貸倒引当金	△1,037	△909
投資その他の資産合計	14,421	15,634
固定資産合計	56,697	59,477
資産合計	130,003	134,204

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	25,587	23,775
短期借入金	32,385	36,618
1年内返済予定の長期借入金	18,776	—
未払法人税等	128	454
賞与引当金	555	1,192
工事損失引当金	380	668
その他の引当金	2	5
その他	5,459	6,866
流動負債合計	83,275	69,581
固定負債		
社債	55	66
長期借入金	1,255	19,311
退職給付引当金	3,171	3,611
環境対策引当金	44	83
その他の引当金	24	31
負ののれん	795	833
その他	772	972
固定負債合計	6,119	24,909
負債合計	89,394	94,490
純資産の部		
株主資本		
資本金	31,186	31,186
資本剰余金	6,959	9,770
利益剰余金	2,278	△2,069
自己株式	△385	△385
株主資本合計	40,038	38,501
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	295	932
繰延ヘッジ損益	—	△0
評価・換算差額等合計	295	931
少数株主持分	274	280
純資産合計	40,608	39,713
負債純資産合計	130,003	134,204

(2) 四半期連結損益計算書
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
売上高	92,918	68,904
売上原価	69,745	52,416
売上総利益	23,172	16,488
販売費及び一般管理費	17,120	13,973
営業利益	6,051	2,514
営業外収益		
不動産賃貸料	85	107
その他	321	302
営業外収益合計	407	410
営業外費用		
支払利息	692	579
その他	644	624
営業外費用合計	1,337	1,204
経常利益	5,121	1,720
特別利益		
土地売却益	—	294
貸倒引当金戻入額	269	—
その他	118	135
特別利益合計	387	429
特別損失		
投資有価証券評価損	—	256
事業再編損	2,558	—
訴訟損失等引当金繰入額	2,300	—
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	101
その他	1,526	68
特別損失合計	6,384	426
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△875	1,724
法人税、住民税及び事業税	544	188
法人税等調整額	1,186	2
法人税等合計	1,730	190
少数株主損益調整前四半期純利益	—	1,533
少数株主利益又は少数株主損失(△)	28	△3
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△2,634	1,537

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△875	1,724
減価償却費	1,994	1,776
貸倒引当金の増減額(△は減少)	481	79
受取利息及び受取配当金	△68	△80
支払利息	692	579
有形及び無形固定資産売却損益(△は益)	△17	△281
売上債権の増減額(△は増加)	8,471	926
たな卸資産の増減額(△は増加)	1,663	△518
仕入債務の増減額(△は減少)	△3,864	1,802
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△546	△440
有価証券及び投資有価証券売却損益(△は益)	4	△41
有価証券及び投資有価証券評価損益(△は益)	553	256
関係会社株式売却損益(△は益)	—	14
有形及び無形固定資産除却損	64	48
事業再編損失	2,558	—
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	101
訴訟損失等引当金の増減額(△は減少)	2,300	—
その他	△1,729	△906
小計	11,682	5,041
利息及び配当金の受取額	224	226
利息の支払額	△705	△569
訴訟関連損失の支払額	△2,934	—
法人税等の支払額	△969	△623
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,295	4,075
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の増減額(△は増加)	△0	△0
有価証券及び投資有価証券の取得による支出	△4	△205
有価証券及び投資有価証券の売却による収入	6	198
有形及び無形固定資産の取得による支出	△2,348	△879
有形及び無形固定資産の売却による収入	176	994
関係会社の清算による収入	—	16
関係会社株式の取得による支出	△8	△50
関係会社株式の売却による収入	—	5
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出	△69	—
貸付けによる支出	△26	△29
貸付金の回収による収入	102	38
デリバティブ取引による支出	△10,042	—
デリバティブ取引による収入	6,238	—
その他	11	△76
投資活動によるキャッシュ・フロー	△5,966	12

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	326	△2,582
リース債務の返済による支出	△13	△28
長期借入れによる収入	—	600
長期借入金の返済による支出	△1,605	△1,530
社債の償還による支出	△11	△11
自己株式の取得による支出	△0	△0
配当金の支払額	△1	△0
少数株主への配当金の支払額	△4	△2
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,309	△3,555
現金及び現金同等物に係る換算差額	△29	△159
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△10	372
現金及び現金同等物の期首残高	15,578	14,891
現金及び現金同等物の四半期末残高	15,568	15,264

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

前第3四半期連結累計期間(自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)

	鉄鋼・鋳鋼 関連事業 (百万円)	鋼製構造 物・機械 関連事業 (百万円)	建築及び 建築関連 事業 (百万円)	その他事業 (百万円)	計 (百万円)	消去 又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	48,934	25,447	11,293	7,243	92,918	—	92,918
(2) セグメント間の内部売上 高・内部振替高	1,355	112	679	2,315	4,462	(4,462)	—
計	50,289	25,559	11,972	9,558	97,381	(4,462)	92,918
営業利益	3,715	1,271	282	1,104	6,373	(321)	6,051

(注) 1 事業区分は、製造方法・製造過程の類似性により区分しています。

2 各事業の主な製品

①鉄鋼・鋳鋼関連事業

ダクタイル鉄管及び付属品、各種調整弁、特殊鋳鉄及び鋳鋼、各種水道工事、土木工事の調査・設計・施工

②鋼製構造物・機械関連事業

橋梁、水門、水管橋、各種産業機械及びプラント、粗大ごみ処理施設、各種プレス

③建築及び建築関連事業

建築、各種ダクト

④その他事業

ポリコンFRP管、各種合成樹脂成型品、ヒューム管、各種コンクリート製品

3 会計方針の変更

(完成工事高及び完成工事原価の計上基準の変更)

「四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更」に記載のとおり、第1四半期連結会計期間より「工事契約に関する会計基準」(企業会計基準第15号 平成19年12月27日)及び「工事契約に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第18号 平成19年12月27日)を適用しています。この結果従来の方法によった場合に比べ、当第3四半期連結累計期間の売上高は、鉄鋼・鋳鋼関連事業で554百万円、鋼製構造物・機械関連事業で610百万円それぞれ増加し、営業利益は、鉄鋼・鋳鋼関連事業で48百万円減少し、鋼製構造物・機械関連事業で89百万円増加しています。

[所在地別セグメント情報]

前第3四半期連結累計期間(自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)

全セグメントの売上高の合計に占める「本邦」の割合が90%を超えているため、所在地別セグメント情報の記載を省略しています。

[海外売上高]

前第3四半期連結累計期間(自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)

海外売上高が、連結売上高の10%未満のため、海外売上高の記載を省略しています。

〔セグメント情報〕

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、本社に製品別の事業本部を置き、各事業本部は、取り扱う製品について国内及び海外の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しています。

したがって、当社は、事業本部を基礎としたセグメントから構成されており、「パイプシステム事業」、「機械システム事業」及び「産業建設資材事業」の3つを報告セグメントとしています。

「パイプシステム事業」は、ダクタイル鉄管及び付属品、各種調整弁の生産及び付帯工事を行っています。

「機械システム事業」は、各種産業機械（各種粉体機器、各種プレス他）、特殊鋳鉄及び鋳鋼の生産及び付帯工事、各種プラントエンジニアリングを行っています。「産業建設資材事業」は、各種ダクト、ポリコンFRP管、各種合成樹脂成型品の生産及び付帯工事を行っています。

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第3四半期連結累計期間（自平成22年4月1日至平成22年12月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント			合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	パイプシステム事業	機械システム事業	産業建設資材事業			
売上高						
外部顧客への売上高	41,333	14,573	12,997	68,904	—	68,904
セグメント間の内部売上高又は振替高	60	34	758	852	△852	—
計	41,393	14,608	13,755	69,757	△852	68,904
セグメント利益	2,004	132	159	2,296	218	2,514

(注) 1 セグメント利益の調整額218百万円には、セグメント間取引消去47百万円、各報告セグメントが負担する販売間接費、一般管理費、試験研究費の配分差額227百万円及び棚卸資産の調整額△56百万円が含まれています。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(追加情報)

第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」（企業会計基準第17号 平成21年3月27日）及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日）を適用しています。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。